



—第21回—

中野 一磨 さん

PROFILE

五戸町出身。県立三本木農業高校植物科学科3年。同校の寮で生活を送る。つくねいもの普及啓発を目的とした同校3年生10人で構成される「つくねいもボーイズ」の3代目リーダーを務め、市内を中心に東京都まで足を伸ばしPRに尽力。来年度は農業経営などを学ぶため、秋田県立大学へ進学する。趣味は家庭菜園。

高校生はひとつのブランド力
若者をどんどん巻き込んでほしい



「つくねいもは長いと同じ気候で育ち、なおかつ農作業が楽なんです」と、話す中野一磨さん。祖父が以前農業を営んでおり、小さい頃長いもの作業を手伝っていたので、つくねいもの作業の楽しさを実感した。

つくねいもに魅力を感じた中野さんは、2年生の頃、先輩たちが取り組んでいた「つくねいもボーイズ」の活動に参加した。栽培試験を行う傍ら、若手農業者集団と連携し農家にPR。今や市内を中心に15件の農家が生産を行っている。農業経営には生産だけではなく販売ルートの確保が肝心。道の駅をはじめ市内の企業に声を掛けるところ、つくねいもの加工品販売に成功した。

昨年11月には東京都千代田区のおおもり北彩館で行われた「おいしい十和田フェア」で初めて都内でつくねいもの試食販売を行った。「都内で地場産品を販売しているかたから、値段は高め設定がいとアドバイスをいただきました。そこで、約3倍の価格で設定したのですが、売れるのか不安だった」と話すが、2日間で売れるはずだった70個が1日で完売となった。「高校生が売っているというこ

とでさらに注目度が増した。高校生はひとつのブランド力、どんどん巻き込むべき。自分ひとりではできない。機会を与えてくださった先生や地域のかた、そして仲間にも恵まれました」と、振り返る。

ボーイズは中野さんの代で最後となる。「活動を通して、わたしたち高校生も農業で地域活性化に貢献できるということが分かりました。わたしたちの代で最後になるのは残念ですが、もっと勉強して地元へ貢献できるようにしたいです」と、意欲的だ。

農業の魅力は、毎年工夫して違うことに取り組むなど、やればやった分結果が出ることだと語る中野さん。「しかし、農業は努力が利益に結び付くことがなかなか難しい。利益が出る農業を模索したい」そのために農業経営などを学ぶことができる大学を選択した。

中野さんの将来の夢は、UTAIンして農業を主とした会社を起業すること。「高校生だからできることがある。皆さんにも経験してほしい。将来は、若い人をどんどん巻き込んで、農業による地域活性化に取り組んでいきたい」と、展望する。ボーイズでの経験が中野さんの原動力となる。

広報とわだ 平成25年2月1日号 第124号
編集発行 十和田市総務部総務課
〒034-8615 十和田市西十二番町6番1号
☎0176⑤6702

「広報とわだ」は再生紙を使用しています。
「広報とわだ」バックナンバーはホームページをご覧ください。

地域の安全・安心に関する情報を配信！

“駒らん情報メール”

携帯電話でQRコードを読み取るか、次のメールアドレスに空メールを送信してください。

▶アドレス anzenjoho@info-towada.jp

